

令和3年度 島根県立情報科学高等学校 学校評価 (No. 1)

教育目標	重点目標等	担当	目標達成のための方策	評価項目	評価値の 元データ	R3			評価	自己評価	改善策	学校関係者評価	
						平均	%	評価				評価	コメント
<p>② 社会人としての規範意識や倫理観を身に付けた感性豊かな人間の育成【人間力の育成】</p> <p>① 地域を担う、情報・ビジネスに関する将来のスペシャリストの育成【専門性の育成】</p> <p>③ 確かな人権感覚の涵養</p>	<p>① 基礎・基本の徹底</p> <p>② 自己有用感に裏付けられた肯定感の醸成</p>	教務 一年	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい授業態度を育成する。 家庭学習の習慣を身につけさせる。 基礎学力向上講座や定期試験前特別講座など、学習不振者への対応を充実させる。 学年会、教科と連携してスタディサブリの効果的な運用をはかり、基礎学力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業に真剣に取り組んでいる生徒の割合 (生徒肯定回答9割) 家庭学習を習慣化させるための適切な指導ができたと考えた教員の割合 (教員肯定回答9割) 家庭学習に真剣に取り組んでいる生徒の割合 各講座が有効と考える教員の割合 	生徒アンケート2	3.4	92	A	<p>B</p> <p>・昨年度からやや数字を落としたが、9割を超えている。まずまずだと考える。 ・「家庭学習・・・教員割合」は昨年度74%から3pアップした。また「家庭学習・・・生徒割合」は昨年度も63%であった。宿題や課題については、週あたりの授業時数や教科の特性もあるが、教科科目間に差があることは否めない。 ・「各講座が・・・教員割合」は昨年度79%から8p上昇した。補習受講者の定期試験の素点と評価をまとめたものを提示することで、先生方がその効果を一定程度実感された結果ではないか。 ・スタディサブリについて、生徒は真面目に取り組んでいると回答しているが教員の評価は低い。原因の一つが年間計画を着実に実施したにも関わらず、11月に実施した到達度テストの結果が4月と変わらないという点にあると考える。課題をやって勉強した気持ちになっている生徒と学習したことを身につけてはじめて評価できるという教員との意識のズレが如実に現れている。 ・授業態度については改善傾向がみられるが、家庭学習についてはまだまだ不十分な生徒が多い。 ・全体的に高い評価をいただいたが、基本的生活習慣が確立していないと感じておられる保護者の方が多かった。 ・遅刻、身だしなみの乱れ、ロッカーの施錠・挨拶ができない生徒が1年生に多い。 ・登校時の昇降口での挨拶や職員室入室、各種手続き等における挨拶・言葉遣い等の指導も多くの先生方の協力で積極的に行うことができ良かった。</p>	<p>・家庭学習の習慣化と基礎学力の向上及びそのツールとしてのスタディサブリの活用について、これらを有機的に結びつけて効果をあげるには、学習指導や進路指導・生活指導を含めた全般的な指導を行うことで生徒の意識を変える必要がある。そのためには、地道に粘り強く生徒を指導していく他に道はない。具体的には、担任・学年会が中心になって、生徒面談・HR・学年集会を充実させ、学期に1回面談週間を設けること等を検討してはどうか。また、スタディサブリについては、リクルート社から生徒の分析を含め、効果的な活用方法を教員や生徒に提案してもらうことが考えられる。さらに、就職先・進学先で求められる力(ゴール地点)を生徒に積極的に提示することで、3年間何をどのようにしたらよいのかを見通しを立てて行動できる主体性を育てる。 ・個別最適な学びにもっとかじを切る必要がある。スタディサブリも個々の状態に合わせて進めていく形を検討したい。 ・規範意識の向上、学校の秩序を守る行動について、生活安全委員会を中心に啓発活動より活性化していきたい。また、頭髪服装指導やロッカー施錠点検、挨拶運動など生徒が主体的に関われるよう工夫していきたい。 ・校則等について、生徒会を中心に全校生徒へ周知徹底すると共に、必要な変更や訂正などについても積極的に検討し、よりよい学園生活が送れるようにしていきたい。</p>	<p>A</p> <p>・家庭学習の習慣化と基礎学力の向上は最も大切なものであると共に大変難しい指導である。宿題の量・難易度、今年度から取り入れたスタディサブリの活用等、生徒のモチベーションを高める努力はなされていると感じられる。また、個別最適な学びにかじを切るという方向性は的を射ていると思う。 ・家庭学習は「学校での学習の延長」ではなく、自分で予定を立て実行する最も自立力を鍛えるためのものであることを生徒に根気強く伝えてはどうだろうか。 ・就職先、進学先で求められる力(ゴールもしくは経由地点)を明確にイメージさせることが学習習慣につながると思います。</p>		
		生徒	<ul style="list-style-type: none"> 常に笑顔で気持ちの良い挨拶をするよう意識させる。 全体での日常的な服装指導の徹底と継続的な声かけを実施する。 登校時にスマホを貴重品ロッカーに保管するよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> スタディサブリが学習の習慣化や基礎学力の向上等に寄与していると考えた教員の割合 スタディサブリ(朝テスト等)に真面目に取り組んでいる生徒の割合 服装・頭髪等、携帯電話、貴重品ロッカー等の校則をきちんと守っている生徒の割合 基本的生活習慣(挨拶、身だしなみ、時間厳守等)が確立していると感じている保護者の割合 服装・頭髪の指導や遅刻防止などの基本的生活態度に関する指導ができたと考えた教員の割合 挨拶、返事などのマナーや社会ルールを理解させ、公共心を育てる指導ができたと考えた教員の割合 	生徒アンケート4	2.7	77	B					
		生徒アンケート3	2.7	63	C								
		教員アンケート7	3.1	87	A								
		教員アンケート26	2.6	63	C								
		生徒アンケート4	3.2	84	A								
		生徒アンケート14	3.6	94	A								
		保護者アンケート11	3.2	87	A								
		教員アンケート8	3.2	97	A								
		教員アンケート9	3.4	100	A								
生徒	<ul style="list-style-type: none"> J S制度の導入により、上級生としての責任感の醸成と実践力の向上を図る。 J S委員と連携し、生徒会活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会やJ S制度を通して、生徒自らが学校行事等を運営できたと感じている生徒の割合 	生徒アンケート29	3.2	92	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度よりも新型コロナウイルスの影響が少なく、計画していた活動も思うように実施できたことで、肯定的な割合が昨年度の74%から大幅に上昇することになったと思われる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会やJ S制度の活動について内容を検討し、コロナ過であっても自己有用感を向上させることができる活動を主体的に実施させたい。 			
人権 同和 教育	<ul style="list-style-type: none"> アンケート(4月)結果に基づいた学習活動(HR等)のPDCAサイクルの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 自他を肯定的にとらえている 差別をはじめとするさまざまな人権課題を自らの問題としてとらえている LHRでの人権学習が自らのあり方を見つめ直す機会となっている 	生徒アンケート16	2.8	66	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は「自己肯定」と「他者肯定」に分けてみた。自己肯定感については昨年度より0.1ポイントの上昇であった。「人権課題を自らの問題としてとらえているか」では昨年度より0.4ポイントの低下である。自己有用感・自己効力感が十分に育っていないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に何ができるかは、さまざまな成功体験を積み重ねて育つものである。他者を思いやる心は育ってきている。普段の学校生活の中で、スモールステップによる成功の積み重ねができる機会を学校全体で増やしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「他人に迷惑をかけない文化」が生徒に根付いていることは嬉しいです。 様々な環境や立場で経験することが、人間性を豊かにしていくものだと思います。 			
生徒アンケート21	3.5	95	A										
意識調査	-	75	B										
生徒アンケート11	3.4	93	A										

身につけさせたい資質・能力の育成	④ デジタルイノベーション創出人材育成のための活動推進	魅力	・学校外での様々な活動に、授業で得た知識・技術を活用する。	・「情報科学高校で遊ぼう学ぼう講座」「オープン・スクール」参加者 100 名以上。	校内統計	-	169	A	A	・授業で得た知識・技術の活用 遊ぼう学ぼう講座やオープンスクールで講師を務めたり、サポートするなどの活躍があった。スキル発揮の機会の向上になり良かった。 ・Google アプリを積極的に授業や校務に活用する場面が飛躍的に増加した。各種調査関係はほとんど、Google フォームとなり、教員の業務効率化に貢献、紙の削減に貢献した他、前向きな ICT 活用の機運が高まったと感じている。	・遊ぼう学ぼう講座は、今年度から組織的に取り組むことができ、昨年度よりも関わる教員と生徒の延べ人数が増加した。今後も組織的な体制を維持、発展させる。 ・来年度は Chromebook 導入で益々環境は整う。さらなる ICT 活用推進のために、DIP での検討と ICT サロン開催などサポート体制を強化したい。	A	・「遊ぼう学ぼう講座」を通じて地域との連携活動は本校の特色が活かせると同時に、生徒たちの自信にもつながり、自己肯定感のアップにつながると思います。 ・新しい技術を積極的に取り入れる姿勢が良い。
			・Google チャットや Google フォームを積極的に活用し、教員間の連携を高めたり、効率を上げ、学習基盤を強固にする。	・Google チャットや Google フォームの活用に向きに取り組めた教員の割合 60% 以上	教員アンケート 30	3.4	87	A					
	⑤ 人格形成の場としての部活動の推進	生徒	・部活動紹介や部活動体験期間の内容の充実を図る。 ・学年会と連携を密にし、部活動加入者が 90% を超えるよう努力する。	・部活動活性化のための取り組みを実践することができたと考える教員の割合	教員アンケート 17	3.2	87	A	A	・年度途中に体育委員会が「部活動アンケート」を作成し実施する予定であったがまだ完成していない。 ・昨年度と比べても新型コロナウイルスの影響が少なかった面が、昨年度よりも結果が良かった一因となった。 ・入部率（1 月現在）は全体で 75.5% と昨年度（81.4% 以上）を下回る結果となった。内訳としては、1 年生 69.2%、2 年生 92.5%、3 年生 65.9% であった。1 年生については中途入部者があり、年度当初と比べてもアップしているが、3 年生の入部率をあげることができなかった。	・体育委員会を中心に部活動アンケートの実施。生徒から改善点や課題について意見を集約し、部活動の活性化に努める。 ・生徒会を中心に、新入生対象の部活動紹介や体験入部の実施方法を検討し、部活動の魅力をアピールしていきたい。	A	・部活動加入者が増えないのは、自動車での送迎やバス通学が増えたことが原因なのではないかと考える。部活動は将来的に人間関係を学べることで、高校生活を充実させ、親しい友人をつくる有効な手段であることを訴えてはいいかがでしょうか。
				・生徒が部活動などの課外活動に積極的に取り組めるようにしていると感じている保護者の割合	保護者アンケート 5	3.4	90	A					
				・部活動やその他の学校行事に熱心に取り組むことができたと感じている生徒の割合	生徒アンケート 15	3.5	93	A					
				・学校全体の部活動加入率 90% 以上	校内統計	-	76	B					
	① 主体的・協働的・創造的な探究学習の推進	教務 商業	・主体的、対話的で深い学びの実現を目指し、研究に努める ・地域の特徴を理解させ、探究活動を通じて問題解決能力を育成する。 ・各学年において目標を定め、3 年間を通じた育成を図る。	・主体的、対話的で深い学びを意識した授業を展開した教員の割合	教員アンケート 28	3.0	80	A	A	・求められる授業像を実践しようと努力している。 ・地域を題材とする授業で各学年を通じて一定の評価を得ることができた。生徒アンケート 20 は探究活動だけではなく、学校での活動全般による成果と思われる。	・深い学びを実現するための対話的という手法である。生徒の興味・関心を強く惹き、深い思考を促すことができる授業を多く実践していきたい。 ・R4 年度に開設される「地域探究応用」をはじめとする探究学習をより推進するよう、立案、推進を図る。	A	・目標をきちんと理解して実施できている。 ・地域の課題学習は机上で得ることのできないリアルな経験が達成感として生徒の成長につながっていると感じる。
				・「地域探究基礎」の授業で、探究的な学習ができたと考えた生徒（1 年）の割合	生徒アンケート 22	3.2	91	A					
				・1 年生：自己評価において、地域への理解が深まったと感じている生徒の割合	生徒アンケート 18	3.2	87	A					
				・2 年生：地域を基盤とする問題解決の取り組みに達成感を感じている生徒の割合	生徒アンケート 19	3.5	95	A					
・3 年間を通じて探究活動による自己の成長を感じている生徒の割合				生徒アンケート 20	3.6	100	A						
② 系統的・組織的なキャリア教育	キャリア	・育成したい資質・能力を明確にしたキャリア・パスポート作成に向けて周知を図り、実施する。	・本校教育目標を受けて作成した、キャリア・パスポートについて共通理解を持っている教員の割合	教員アンケート 22	2.6	63	C	C	行事ごとの自己評価等、IT 機器を使用することが多く、キャリアパスポートそのものを使用する機会が減少したことが原因だと考えている。	各分掌・学年会が主催する行事等において、タブレット入力の場合も、必ずキャリアパスポートの内容を盛り込み、「プリントアウト」「いつでも振り返ることができる」ようにする。	C		
			・公開授業、授業参観を合わせて 4 回以上行った教員の割合（100%） ・教材研究に積極的に取り組んでいる教員の割合	校内統計 教員アンケート 5	- 3.4	92 93	B A	A	・1 月末の達成率は 92% である。今年度も実施期間を 3 期間に分け、グランドデザインを意識した「なぜ？を深掘りし、生徒の探究心を刺激する（思考・表現）授業」をテーマに実施した。また人権・同和教育 HR の参観を促し、教員研修につなげた。 ・教員の授業を肯定的に評価している割合は昨年度 88% から 9 割を超えた。教員が教材研究はもちろん、授業改善に日々努力している成果と考える。 ・iPad があることで学習に向かいやすくなっている生徒が多いと思われる。	・2 月中に達成率 100% とする。来年度も方向性は継続する。公開にあたってはテーマについてより意識を高め、授業内容を深めることで、授業の充実度を感じる生徒の割合をさらに高めたい。 ・教材研究はもちろん、ICT 機器の活用・評価のあり方等、総合的な観点から授業改善を常に促していきたい。 ・iPad を用いた授業については、使い方のみならず考え方を含めた教員研修を要望していきたい。	A	・難易度の高い日商簿記検定を受検する生徒が定着しており素晴らしい。 ・コロナ禍の現状の中で、よくがんばっていると感じる。	
・先生は授業内容が理解しやすいよう、教材等工夫をしていると感じている生徒の割合	生徒アンケート 9	3.3	92	A									
・iPad が役立っていると感じる生徒の割合	生徒アンケート 5	3.2	88	A									
・iPad を積極的に活用した授業を実施している教員の割合	教員アンケート 29	2.9	77	B									
③ 学習内容と指導の充実	教務 DIP 一年	・授業公開、授業評価、授業改善のサイクルを通して、教科指導力の向上と充実に努める ・日々の授業の教材研究を充実させる ・iPad を活用し、生徒の学びを深める	・島商研表彰生徒（1 級 2 種目以上）の割合が 3 年生の 10% 以上。かつ、情報処理国家資格・日商簿記検定 2 級取得者が合わせて 5 名以上。	校内統計	-	-	A	A	・1/24 現在 日商 2 級 2 人 IT パス 5 人、基本情報技術者 0 人。 3 年生で 2 種目 1 級取得者 16 人。3 種目 1 級取得者 1 人。 ・コロナ対策のため、通常開催が 2 年連続で出来ず、本来の IT フェアを知る生徒がいなくなる。来年度は改めて再構築する必要がある。	・今後も平素の授業を充実させることが重要と考える。単に授業の最終目標が検定の合格にならないよう指導力の向上、教材の精選を進めたい。 ・IT フェアについては魅力化推進部と連携し、より発展していくよう努めたい。	A		
			・情報 IT フェアの開催。 ・情報 IT フェアに関する活動を有意義なものにできたという生徒の割合	生徒アンケート 7	3.3	89	A						
④ 専門性の深化	商業	・ICT 機器や教材を活かした質の高い授業に向け、改善を重ねる。 ・情報 IT フェアの開催。	・島商研表彰生徒（1 級 2 種目以上）の割合が 3 年生の 10% 以上。かつ、情報処理国家資格・日商簿記検定 2 級取得者が合わせて 5 名以上。	校内統計	-	-	A	A	・1/24 現在 日商 2 級 2 人 IT パス 5 人、基本情報技術者 0 人。 3 年生で 2 種目 1 級取得者 16 人。3 種目 1 級取得者 1 人。 ・コロナ対策のため、通常開催が 2 年連続で出来ず、本来の IT フェアを知る生徒がいなくなる。来年度は改めて再構築する必要がある。	・今後も平素の授業を充実させることが重要と考える。単に授業の最終目標が検定の合格にならないよう指導力の向上、教材の精選を進めたい。 ・IT フェアについては魅力化推進部と連携し、より発展していくよう努めたい。	A		
			・情報 IT フェアの開催。 ・情報 IT フェアに関する活動を有意義なものにできたという生徒の割合	生徒アンケート 7	3.3	89	A						

学びを支える安心安全な環境	①安全意識の高揚	総務	・防災教育、避難訓練の実施(年3回)	・災害発生時に適切に行動し、安全に避難することができる生徒の割合(90%)	生徒アンケート10	3.4	92	A	A	・今年度はコロナ禍の中においても、全校一斉避難での訓練を実施し、実際の避難と同様の訓練を実施することができた。	・いざというときにどう動くべきか、生徒が自分のこととして考えられるような訓練のあり方を工夫していきたい。	A	・安全面での環境作りは申し分がないと思う。 ・昨年の豪雨の際も素早く休校措置をとる対応があった。教職員の危機管理の意識の高さが生徒の安心感、安全意識の向上につながっていると思う。 ・車での送迎時の安全管理はまだまだ継続していく必要があると感じる。
		生徒	・街頭指導(交通安全運動週間) ・自転車点検(年1回) ・安全に関わる情報の周知徹底 ・安来警察署との連絡・協力	・交通ルール及び自転車のマナーを守り、事故防止に努めている生徒の割合	生徒アンケート13	3.7	99	A		・春秋の交通安全週間には街頭指導を実施したが、大きな問題もないとの報告を受けた。 ・安来市内の中学校と連携し、生徒や地域の情報共有を図ることができた。その際、中高生の自転車並進・右側走行について指摘された。	・車での送迎やバスでの通学が多くなったため、街頭指導を行っても生徒が通らない。街頭指導の方法や場所についても検討していきたい。		
	②生徒理解に基づく組織的な対応	教務	・学年会、明るい学校推進委員会と連携をとり、生徒の支援体制の一翼を担う。	・明推会等を通して、生徒への支援を適切にできたと考える教員の割合。	教員アンケート24	3.1	90	A	A	・試験等で支援や配慮が必要な生徒について、明推会で情報を共有・議論し、必要と考える体制を構築できた。	・今後も学年会と情報を共有し、明推会を通じた生徒支援体制に貢献したい。	A	・人は人によって傷つきませんが、また人によって救われます。悩み多き年代かと思うので、大変かと思うが手をさしのべてやってください。
		生徒	・生活アンケートの実施及び活用し、情報の共有と組織的対応で指導する。	・生活アンケート等を通して、学校生活での悩みなどを相談することができた生徒の割合	生徒アンケート30	3.0	81	A		・生活アンケートについて、生徒の肯定的割合が昨年度の74%から大幅に上昇した。生徒からの申し出について、担任及び学年主任が速やかに対応し、管理職や生徒指導部と組織的に対応できた結果だと思う。しかし、未だ20%近くの生徒が相談できていない状況である。肯定的割合100%を目指して、引き続き安心・安全な学校づくりに努めていきたい。	・生活アンケートでいじめなどの現状を訴える生徒は少なかったが、目に見える不登校や悩みに対して対応することが多くなった。アンケートだけでなく、日々の学校生活における生徒の情報を全職員で共有する機会を設けていきたい。		
		保健	・スクールカウンセラーを活用した教育相談の実施。 ・個別の生徒の状況を把握し、必要な支援を協議して、共通理解のもとで支援を行う。	・生活アンケートや面談を通して、生徒の人間関係などを把握し、組織的に対応することができたと考える教員の割合	教員アンケート23	3.3	92	A		・先生は、生徒の悩みや困っていることについて誠意をもって相談にのってくれると感じている生徒の割合。	・相談体制があり、安心して気軽に相談できることを生徒・保護者に継続的に伝えていきたい。		
				・先生は、生徒の悩みや困っていることについて誠意をもって相談にのってくれると感じている生徒の割合。	生徒アンケート17	3.3	89	A		・「相談だより」などにより、相談機会の周知を図り、利用率が高かった。			
				・学校は、生徒や保護者から様々な相談ができるよう配慮していると感じている保護者の割合。	保護者アンケート4	3.2	88	A		・学年会や明推会との連携、保健室の利用状況の観察により、相談が必要と思われる生徒を把握してSCに繋げ、本人・保護者や担任に有効なアドバイスが得られた。			
				・生徒や保護者の悩みや相談ごとに、誠意をもって対応している教員の割合。	教員アンケート16	3.5	97	A					

※「平均」欄は、評価(あてはまる=4 ある程度あてはまる=3 あまりあてはまらない=2 あてはまらない=1)を平均したもの

※「評価」欄の基準は肯定的評価の%: A=80%以上 B=65~79% C=50~64% D=50%未満

令和3年度 島根県立情報科学高等学校 学校評価 (No. 2)

教育目標	重点目標等	担当	目標達成のための方策	評価項目	評価値の元データ	R3			評価	自己評価	改善策	学校関係者評価	
						平均	%	評価				評価	コメント
② 社会人としての規範意識や倫理観を身に付けた感性豊かな人間の育成【人間力の育成】 ① 地域を担う、情報・ビジネスに関する将来のスペシャリストの育成【専門性の育成】	進路実現に向けた支援	進路	感染症の状況を把握しながら、年間行事予定に沿って企業説明会・進路ガイダンスを実施する。また感染症対策として希望者対象ガイダンス(密を避ける)等を実施する。	進路に関する行事が有意義であると感じている生徒の割合	生徒アンケート 23	3.5	97	A	A	感染状況に応じて対面実施・オンライン実施・内容変更など、中止にしないように工夫した。希望者対象のガイダンス等は参加希望者が少ない企画もあった。	感染終息が見えない中、必要な時期に必要な内容で実施するための方法を検討する。方法の一つとして校内の教員(進路・各学年部)で実施する企画を増やす。	A	・進路支援は十分にできている。 ・コロナ禍の中、オープンキャンパス等へいけない等、苦戦した年であったと思う。オンラインの良いところ、対面の良いところをうまく折衷していくしかないのがもどかしい。
			生徒・保護者・企業・ハローワークおよび上級学校と連携を取り、的確な情報を得る。面接・小論文等の全校体制を強化する。	進路先が決定している生徒の割合	校内統計	-	95	A	A	高い進路目標を掲げた生徒が多かったが、面接を苦手とする生徒が多く、就職・進学とも苦戦した。しかし先生方の指導が、生徒の粘り強く最後まで頑張る気持ちにつながり、1月末時点で95%の進路先が決定した。	面接試験では選考基準を把握するための初期指導を徹底したい。また高い目標を実現するための対策(希望者模試等の活用)についても検討していきたい。		
			情報冊子(面接、小論文等)の選定・購入・利用を薦める。進路通信等を活用し、生徒・保護者に求められている情報を迅速に提供する。	適切な進路情報が提供されていると感じている保護者の割合	保護者アンケート 6	3.4	96	A		A	計画通り情報提供を行った。しかし例年のことだが、1・2年生は積極的に進路情報を収集し、活用することができていない。		
	学校と地域との協働	魅力	<ul style="list-style-type: none"> 各専門部会と魅力化推進委員会の実施状況。 生徒の活動をコンソーシアムメンバーに共有し、その評価を生徒に返す仕組みをつくる。 コンソーシアムの団体と共にプロジェクトを企画・実施する。 	各部会2回以上の開催	校内統計	-	100	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 各専門部会、魅力化推進委員会においては、必要に応じて会の開催ができ、目標や課題の共有をすることができた。 地域探究基礎ではコンソーシアムで構築した「人財バンク」を活用して地域の方から学ぶ機会を創出できた。また、情報 IT フェアはオンラインであったが、コンソーシアムメンバーを招き講師してもらったり、地域の方との交流できるよう工夫を凝らした。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域探究基礎や商業科目、IT フェアでは、地域人材の活用ができたが、共通教科やその他の活動で、地域との関わりを増やしていくことが今後の課題だ。R4からは地域探究基礎に加え探究応用も基軸に据えて、多くの教科や活動が連携していけるよう、魅力化推進部がコーディネート力を発揮したい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、連携が取りづらいいところを考えると、今できることは達成されている。 人財バンクは、その町に住み、働いている方々の体験談等を聞くことができている。
				各部会の活動2つ以上	校内統計	-	100	A					
				地域の方が、本校生徒に関わっていることを感じるが増したと考える教員の割合70%以上	教員アンケート 20	3.6	97	A					
				地域の人と交流し、意欲的に取り組めたと回答した生徒50%以上	生徒アンケート 31	3.2	85	A					
		総務	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールを開催し、本校の魅力を感じてもらおう。 中学校で開催される学校説明会等に積極的に参加する。 	オープンスクール参加者が募集定員を上回るようPRする。	校内統計	-	148	A	A	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールは2回合計して148名の中学生に参加していただき、昨年度(131名)よりも多数の参加があった。事後アンケートでも第1回が93.6%、第2回が96.1%の中学生が情報科学高校への進学に前向きな回答をもらった。 学校案内は、表紙や部活動のページに在校生の写真やコメントを大きく掲載し、親しみが持てるようにした。学校紹介DVDは、学科主任の動画による学科紹介を入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動紹介はコロナ禍ということで見学のみとしたが、部活動体験も可能な範囲で実施できれば、中学生にとってもより有意義なオープンスクールになるのではないかと。 来年度の学校紹介DVDは、マルチメディア科3年生が素材を集め、編集を進めている。学んだ知識や技術を生かして生徒が制作したDVDが、本校の魅力伝えるツールとなることを期待する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある高校になってきていると感じる。この高校でしか学ぶことができないこと、地域に開かれた校風をこれからも期待している。
				中学生や保護者に関心を持ってもらえるようなプレゼンや学校案内等を作成できたと考える教員の割合	教員アンケート 31	3.4	100	A					
商業魅力	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校との連携 ①学校開放講座の毎月実施 ②小中学校教員対象研修の実施 ③出前授業の実施 ④中学校礼法指導の実施 	連携ができたと感じている教職員の割合	教員アンケート 19				B	<ul style="list-style-type: none"> 地域に開かれ、必要とされる高校になってきたと感じる。本校主催の講座を除いて、その他は全て地域から要望があって開催している。安来二中校区の交流会は強い要望で初開催し、来年度以降も希望されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの要望をいただくことは大変嬉しいが、本来の授業・活動の目的に沿い、教員や生徒の負担が過剰にならないよう留意しながら、可能な範囲で地域の要望に応えていく必要がある。 				
		・連携ができたと感じている教職員の割合	教員アンケート 19										
次年度へ向けての準備	①新しい学習基盤づくり	教務	3観点別評価について、各教科及び学校全体で議論を深め、本校が掲げる人材の育成するための評価体制を確立する。	教科会、教科主任会を通じて十分な情報提供や議論がされていると考える教員の割合	教員アンケート 25	3.4	93	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 3観点別評価については、8月以降県教委の指導を踏まえ、教科主任会で半年かけて準備を進めてきた。時間もかかったが、新たな評価体制を構築するうえで無駄ではなかった。科内でも議論していただき、有為な意見を頂戴した。 8月から準備を進め、特別活動評価委員会の審議を経て、1月の職員会議で大筋合意された。現行の特別活動の枠組みの中で、全教員が関わる評価体制を作ることができたと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 2月に第2回全体研修会を実施して正式な体制を整えるとともに、教務規程の改正を進める。来年度1年生のシラバスの作成を通じて、3観点評価への意識を高める。 生徒の特別活動の評価を記録するシステムを年度内に完成させる。来年度の実施を通じて改善をはかり、よりよい活動内容と評価のあり方を構築する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 次年度へ向けての準備など、先生方の頑張りに感謝です。ますますの高校の発展に期待します。
			特別活動の評価のあり方について議論を深め、新しい体制を構築する。	特別活動の評価のあり方について、十分な議論がされていると考える教員の割合	教員アンケート 27								

※「平均」欄は、評価(あてはまる=4 ある程度あてはまる=3 あまりあてはまらない=2 あてはまらない=1)を平均したもの

※「評価」欄の基準は肯定的評価の% : A=80%以上 B=65~79% C=50~64% D=50%未満